

講座 No 1 3 凝視について（初中級向け）解説編

著 drapon

「凝視」というと何をすればいいかわからない、という方は多いと思います。

ただ漠然に見るというのも難しく長続きしにくいと思います。

なので、今回のプリントでは凝視における要点や段階と見るべきタイミング、要点を絞って説明したいと思います。

凝視とはなんぞ！みたいな人も居なくはないので簡潔に説明すると、

「相手のフィールドの状況を確認して、その凝視して見た内容を元を自分のフィールドに反映させる」ことです。が、はじめの内はこんな感じに一言で表してもなかなかイメージしにくいと思います。

凝視より以前にしっかり自分の本線が組めるように、基本的な連鎖を安定させるステップが、凝視を身につける前段階だと言えます。GTR、階段積み、鍵積みなど一つでもいいので、安定して10連鎖以上組めるようになりましょう。いわばゼロ段階目とも。



第一段階はまず、ぼんやりでもいいので、ときたま相手のフィールドを見ながら連鎖が構築できるように訓練しましょう。何が見えているかは、具体的に把握できなくても大丈夫です。

次に第二段階は、具体的に何を見に行くか、ターゲットを照準して、「それだけは絶対に把握しよう！」みたいな気持ちで凝視してみましょう。連鎖が構築して上部になっていくと落下速も相まって時間的余裕がなくなるので、凝視できなくなってしまうのは仕方ないです。なので、ある程度連鎖が大きくなったら連鎖に集中しても問題ありません。徐々に、見える範囲を増やしていくことが大切です。

例：折り返し部、副砲。相手の隙となる部分。

第二段階をクリア出来たら、上級者のステップに踏み出したと言っても過言ではありません。

次回プリントは上級者のステップに辿り着く前に、どのような部分を凝視すべきか画像など加えつつ、いくつかポイントを紹介しようかと思います。

副砲、相手の本線が打っている際の連鎖尾、折り返し・・・色々ありますが、初めの内に把握した方がいいと思えるポイントを纏めておきます。